



令和7年1月15日  
第889号

一般財団法人日本遺族会  
〒100-0001 東京都千代田区千代田  
千代田一丁目六番四号  
九段会館7F 3261-5521  
電話 03-3261-5521  
00160-6-25389  
電報 登月 1部130円(税込)  
編集 毎月1部130円(税込)  
定価

日本遺族会は国の礎となられた英霊顕彰をはじめ、戦没者の遺族の福祉の増進、慰藉救済の道を開くと共に、道義の昂揚、品性の涵養に努め、世界の恒久平和の確立に寄与することを目的とする。

### 女性部結成70周年

## 戦争の記憶を次世代へ 「平和の語り部」研修会開催

日本遺族会女性部は結成70周年記念平和の語り部研修会を開催。前身の婦人部から名称、構成を変えながら、常に「二度と戦没者遺族を出さない」という思いを次世代へ継承する役割を担った女性部が、本研修会を通じ、次世代と共に記憶を伝承する意識の醸成が図られた。会は広く報道され、終戦80年に臨む遺族会の覚悟を示すスタートとなった。

（一）日本遺族会女性部の歴史を振り返りたい。昭和29年戦没者の妻でつくる「婦人部協議会」を結成。婦人部は戦没者の名を回復と失われた処

遇を求め、国が戦没者の妻の労苦を認めた。戦没者の妻に対する特別給付金「おはじめ」国は戦没者を忘れないとする特甲の創設運動の中心であ

り、婦人部の活動は、まさに遺族会の歴史そのもの。婦人部は早くから組織継承を見据え、平成18年女性部見直し、平成18年女性部見直し、女性部の配偶者に加え、「女性部」と改称した。その思いに込め、現女性部が中心となり、平成23年以後継承育成を

高めるため、年間を通して全国で語り部事業を切れ目なく展開する終戦80周年記念事業を計画しておき、本計画を広報のスタートとして本研修会を位置づけた。

テーマは「みんなで語り部活動に参加しよう！自分史を作る座談会」とし、女性部一人一人が自身の記憶を思い出し、座談会を重ねることで、語り部活動者を目指すもの

で、香川県観音寺市遺族連合会女性部の取組みに合わせたものである。まずは自身の記憶を思い出すためのアンケートを実施し、各支部からア



青年部と共に語り継ごうと呼びかける伊藤早苗  
女性部長 = 12月11日、九段会館テラスで

ロク幹事支部へ。幹事支部で取りまとめ、本部へ送付された。本部は、全国から送付された約500枚のアンケートを分析（回答者の生まれ、続柄、内容）し、本女性部正副部長、幹事に相談。加えて、各ブロック会議、研修会（親会、女性部青年部ブロック別）において、各女性部長と話し合いを重ね、座談会のテーマを語り部活動者ごな

るために②青年部と共に取り組む語り部を決めた。座談会の主な意見は以下の通り。アンケートを語り部、記念誌に発展させたい（1B）、アンケートの何倍もの思いを感じた（2B）、自分史座談会を重ね女性部が先頭に立つ（3B）、青年部（資料作成等）と共にする活動（4B）、書くこと

話として記憶を残すため、命ある限り語り部（5B）会を総評した田中喜喜副部長は、女性部から寄せられた多くの意見は語り部、思いを掻き立てるもので、大成功だったと締め括り、伊藤早苗部長は青年部と共に語り部という呼びかけ。（詳細は二面、本研修会が即日共同通信で配信された。

謹 哀悼  
増矢 稔氏 日本遺族会元副会長、徳島県遺族会名誉会長、前会長。  
令和6年12月1日、逝去された。84歳。通夜・葬儀は三原市古浜・三原典礼会館で行われた。喪主は妻孝子氏。

「終戦八十周年の決意」  
日本遺族会会長 水落敏栄  
遺族の皆様にはお元気を新しい年をお迎えのことと拝察いたします。年頭にあたり、日本遺族会会長として、「平和の語り部」を通じて社会に奉仕する決意を表明いたします。本会は、「二度と戦没者遺族を出さない」という固い決意のもと、七十七年の長きに亘り活動を続けてまいりました。組織の構成は、戦没者の父母、兄弟、姉妹から妻へ、そして遺児から戦後生まれの青年部へと多くの方々のご尽力により敷かれてまいりました。その間一貫して活動の根幹は「英霊の顕彰」「戦争の犠牲を忘れない」とでありました。時代は激動の昭和から平成へ、戦後生まれが、社会の半数を占めはじめ、先の大戦の記憶を後世に語り継ぐ機運が生まれ、各方面で語り部や体験発表等がさかんに行われました。しかし、いつしか人々の興味は薄れ、戦争の記憶は今消えようとしています。本会はこうした状況に大いなる危機感をもち、それまで草の根的に広がった語り部を確実に次世代へ継承するため全国的組織化を令和5年度から3カ年計画で始めました。本会は、他方、国も戦没者の記憶を風化させないよう令和6年度より「平和の語り部事業」を新設し、本会が応募し、採択されています。今、令和6年度が最重要の最重要項目「国は戦没者を忘れない」とする特別増徴金の増額、何より「平和の語り部事業」の予算が、概算要求額を大幅に上回る一億円と計上されたことは、本会の長年の活動が評価された証でありました。このことは、社会のニーズに応えたいと、多くの語り部活動者の育成が急務です。地域において個人で活動する語り部を担い、共に、体験者である遺族と次世代青年部が共に記憶の伝承に取り組んでまいります。そして、最終年となる令和7年度の慰霊及友好親善事業（海上慰霊）や遊園収集、遺留品整理、慰霊館の維持管理、あらゆる活動を通して、平和を語り継ぎ、意識を醸成し、より多くの語り部活動者を育成しよう。

1月1日付新聞に「この目で見た惨禍を、次代につなぐ重要な一年に」との書き出しで、先の大戦で、40人以上が犠牲になった花巻空襲の記憶を語っている方の記事を紹介する▼「夏休みの暑い日だった。米軍機が東上空から市街地へ旋回し、エンジン音が『ゴォー』と変わった。その瞬間、一気に爆撃された。あまりの衝撃、市街地は火災で丸2日間燃え続けた。目の奥に映った現実は幼心に刻まれ、それは後に恐怖や怒りに変わった▼あの日の記憶、空襲を今話題にする「驚くほど知られていない」現実があった。「自分が語り継がねば」と責任感が沸き立ち、地域の会合で空襲を伝える活動が始まりました。また、貴重な生きた教材として、米軍機の来襲を感じするために立てられた口筒状の「聴音壁」（防空監視哨）の保存にも尽力した▼戦後80年の節目の年は、戦没者遺族を含む戦争体験者の記憶を聞き、次世代が共に学べるラストチャンスかもしれない。平和を享受した現代の日本で、戦争の恐ろしさをどう伝えるか。他方、世界では紛争が絶えず（戦争の危険は常に隣り合わせにある）と感じる。だからこそ「体験者の記憶を伝え、伝承する」。これこそ遺族会にしかできない活動だ。（M）



令和7年 新年の靖国神社

### 謹賀新年

- 一般財団法人  
日本遺族会  
会長 水落敏栄  
副会長 宇田川 劍雄  
同 國政隆昭  
他役員一同

### 洗心懇談会（順不同）

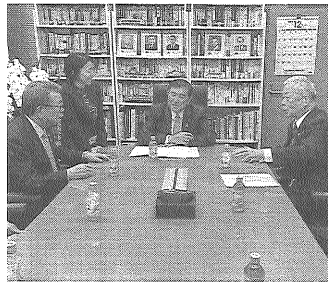
- 東 郷 郷 会  
大東亜戦争全戦没者慰霊団体協議会  
特攻隊戦没者慰霊顕彰会  
三 笠 保 存 会  
中 央 乃 木 会  
千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会  
日 本 郷 友 連 盟 会  
水 交 友 社  
陸 修 借 行 社  
靖 國 神 社  
英 霊 に こ た え る 会  
日 本 遺 族 会

令和7年度政府予算  
本会重点要望事項完全実現  
特許継続・増額、海上慰霊美施  
平和の語り部大幅拡充へ  
詳細は次号で

# 要望実現に向け力を結集 石破総理、関係大臣へ陳情

来年度政府予算編成にむけ、本会は要望事項の完全実現を目指し、第79回全国戦没者遺族大会を開催。終戦80年に「平和の語り部」を通して社会に奉仕する決意を高く表明。次世代青年部との活動により戦後100年までの覚悟を示した。大会後、予算委員会休憩中の石破総理に面会。総理は遺族の記憶を伝承する語り部に深い理解を示した。

日本遺族会は令和6年12月10日、全国戦没者遺族大会を開催。全国より約300名の遺族が参集し、衆参の自由民主党国会議員176人(代理含む)が出席した。接接に立った水落敏栄



水落敏栄会長、國政隆昭副会長(右端)の陳情に真摯に耳を傾ける石破茂総理 =12月10日、衆議院議員会館で

本会会長は、冒頭「平和の語り部」を通じ、社会に奉仕する決意を高く表明。次世代青年部との活動により戦後100年までの覚悟を示した。大会後、予算委員会休憩中の石破総理に面会。総理は遺族の記憶を伝承する語り部に深い理解を示した。

## 女性部結成70周年記念事業 「平和の語り部」研修会内容

12月11日、12日両日に開催された研修会内容は以下の通り。  
靖国神社で奉告参拝後、九段会館テラスへ移動。研修1では本部が本研修会の意図と女性部に求められる語り部を説明した後、遺児と青年部の語り部の実演が行われた。遺児の語り部は、濱順子第4ブロック幹事(徳島県遺族会副会長、本部



高崎市遺族の会による紙芝居「奇跡の時計」披露 =12月11日、九段会館テラスで

語り部事業化推進委員。遺児慰霊友好親善事業(沖繩)への参加をきっかけに父を知りたいという気持ちを募らせ、沖繩平和祈願堂大行進等に参加し、出会った縁により、父の部隊の様子が判明。父の従事した任務(水上特攻マルレの後方支援)、米軍へ突撃した壮絶な最期を知り、知らなければ良かったと思っ

たが、戦争の悲惨さを伝えたいと語り部活動に参加した思いを語った。その上で、修学旅行の事前学習として小中学生に語り部の講話を上演し、生徒が自分事と捉える工夫として、事前に家族や知人に戦争を体験してもらった。高崎市の語り部高崎市長と小川愛之さんによる紙芝居「奇跡の時計」披露と製作に至った経緯を説明。紙芝居製作のきっかけは、神風特攻隊として米空母に突撃し、戦没された確水郡八幡村(現高崎市)出身小川大尉を大尉父にもつ青年部員小川陽子さんと

り語り部事業に注目。青年部と共に朗読劇に挑戦していることが紹介され、遺族一人一人が語り部としての活動しようと呼びかけた。大会終了後、遺族代表は、地元選出議員所属国会議員に陳情し、水落敏栄副会長はじめ鳥取県代表は、議員会館で石破総理に面会し、要望事項の完全実現に向けて、水落敏栄本会会長、常務理事10項目のうち、最重要3項目を説明。①国は戦没者を忘れないとする特別用慰金(以下特用)の継続・増額。②戦争の悲惨さ、平和の尊さを伝える「平和の語り部事業」の拡充強化。③海軍鎮魂の記憶を風化させない取組が非常に大切。遺族会の語り部事業は時機を捉えたもので、大幅拡充をすべきた。英霊顕彰に切れ目なき。終戦80年にあふわしい年とすべし予算確保に努めようとする。先の総選挙において当選した(衆)栗原渉議員(福岡県遺族連合会青年部長)が事務局長に任命されるなど、役員改選も行われた。

座談会を兼ね、記憶の内容を傾向分けし、子供たちに分かりやすく伝えるため、紙芝居を検討。内容をまとめ、地元の高崎作家に依頼、努力を重ね完成。学校の紙芝居披露が報道されることがきっかけとなり、地域の要請で最終的にDVDとして具現化した。自身の記憶を思い出すため、集まった語り部、重要な事項を希望する遺族会活動)を中心に女性部が先頭に立ち盛り返してほしい」と語った。



全国戦没者遺族大会で意見発表する西田富子佐賀県遺族会会長 =12月20日、自由民主党会館で



遺家族議員協議会総会で本会の要望について陳情する水落会長 =12月4日、自由民主党会館で

## 本会の要望を陳情 遺家族議員協議会総会で

12月4日、自民党の遺事、事務局長、他担当職族会応援団である議員連盟「遺家族議員協議会」が主催した。国会開会中にもかかわらず、参100名の御霊に慰霊を捧げる洋上慰霊堂の実現(遺児慰霊友好親善事業の充実)。中でも遺児の思いを形とした遺児慰霊友好事業の意義に触れ、次世代が付添者として遺児と共に慰霊参拝する中で語り部を醸成されていることを説明。次世代と共に平和の語り部として、戦争の記憶を伝承することで社会貢献する決意を表明した。

項目を説明。①国は戦没者を忘れないとする特別用慰金(以下特用)の継続・増額。②戦争の悲惨さ、平和の尊さを伝える「平和の語り部事業」の拡充強化。③海軍鎮魂の記憶を風化させない取組が非常に大切。遺族会の語り部事業は時機を捉えたもので、大幅拡充をすべきた。英霊顕彰に切れ目なき。終戦80年にあふわしい年とすべし予算確保に努めようとする。先の総選挙において当選した(衆)栗原渉議員(福岡県遺族連合会青年部長)が事務局長に任命されるなど、役員改選も行われた。

### 支部長交代

山口県、佐賀県で役員改選が行われ、新会長が就任した。

- 山口県 市来健之助氏 (11月24日付)
- 佐賀県 西田 亨氏 (12月2日付)

### 山口県遺族連盟

沢一郎会長はじめ、青年部(参)加藤明良議員、(衆)栗原渉議員、来夏参院選出馬議員の橋本聖子、佐藤正久、有村淳子各議員が出席された。本会の発展に寄与された古賀誠・尾辻秀久両名参院選に女性部より花束が贈呈された。古賀参院選は、谷川俊太郎氏の詩を引き合いに「平和を希求する遺族会活動)そが語り部。水落会長を中心に女性部が先頭に立ち盛り返してほしい」と語った。

### 厚生労働大臣表彰

# 本会関係者88人に荣誉

## 長年の援護事業功労者へ

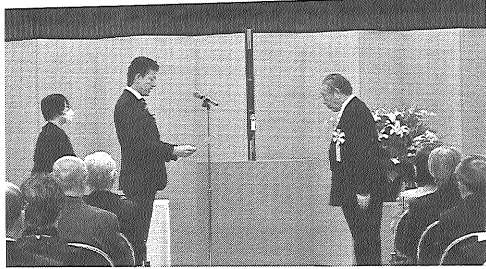
令和6年度の援護事業功労者に対する厚生労働大臣表彰が12月9日、都内の都道府県会館において挙行された。多年にわたり戦没者遺族、戦傷病者、中国からの引揚者等の援護事業に携わり功績が顕著な方々と、語り部ボランティアを含む92人が表彰された。このうち日本遺族会関係者は、37支部88人が栄ある受賞に輝いた。

厚生労働大臣表彰が12月9日、午前11時30分より都内の都道府県会館で挙行された。

吉田真次厚生労働大臣政務官の挨拶に続いて、司会者より被表彰者の名前が一人ずつ読み上げられる。表彰を称えらるる者、栄誉を称えらるる大きな拍手が沸き起こった。

被表彰者を代表して工藤新悦氏(若手県遺族連合会副会長)が謝辞を述べた。被表彰者を代表して工藤新悦氏(若手県遺族連合会副会長)が謝辞を述べた。被表彰者を代表して工藤新悦氏(若手県遺族連合会副会長)が謝辞を述べた。

## 援護事業功労者表彰式



被表彰者を代表して表彰状を受け取る工藤新悦氏(若手県遺族連合会副会長) = 12月9日、都道府県会館で

おいて、本会主催による厚生労働大臣被表彰者祝賀会に出席した。

水落会長が挨拶し、被表彰者を代表して工藤新悦氏が謝辞を述べ、福井県遺族連合会副会長平田修次氏の乾杯発声に続き、祝賀会は和やかな雰囲気の中で幕を閉じた。

戦没者遺骨収集推進協議会(推進協)は、硫黄島とソロモン諸島がダルカナル島に令和6年度遺骨収集派遣を派遣し、硫黄島で33、ガダルカナル島で14柱を移送した。千鳥ヶ淵戦没者墓苑でそれぞれ遺骨引渡式が挙行され、出迎えた遺族代表、国会議員関係団体代表等が見守る中、派遣団員から厚生労働省職員へ遺骨が引き渡された。

硫黄島戦没者遺骨収集派遣(第3次)は、本会から6人が参加協力し、その他硫黄島協、小笠

加納勝也(山形県) 石山正明(福島県) 齋藤徳仁(小野崎町) 遠藤俊英(東京都) 小野崎孝子(神奈川県) 川島 秋山恵子(鈴木一美(埼玉県) 三上喜也(加藤雅司(若上紀美子(茨城県) 飯泉正夫(戸塚寛一、大島和子、宮崎誠一(静岡県) 法月晋一(鈴木政充(群馬県) 森田博一(長野県) 伊藤誠一(石川県) 山口俊一郎(上田宏昭(山形県) 福井豊河上明博(竹澤瑞子、平田修次(愛知県) 田中剛小島宏(西尾裕子(滋賀県) 田中正彦(井上亮一(奈良県) 竹田和子(和歌山県) 西畑洋子(神野喜文(新潟県) 京都喜久(上野新二郎(祝前哲夫(大阪府) 奥田尚次

奥田朋子、樋口栄一(兵庫県) 林泰三(鳥取県) 武田山 山根喜(鳥取県) 土江具実、足立喜信、道前誠造(岡山県) 藤原信子、横田秀夫(広島県) 古川敏(山口県) 藤村紀久正、森重淑子、清水勝治(香川県) 横山貞司、清原榮子、仲西正則(徳島県) 重順子、田中恒弘(西内重文(愛媛県) 尾崎忠臣(西村利明、石川サチ子(高知県) 竹村暢文(山本牧夫(福岡県) 佐藤榮一、谷口眸(宮崎県) 梶村福男(佐賀県) 東島勝彦、塚邊鐵雄、直松正敏(大分県) 日高輝子(菅野喜代子(熊本県) 崎坂純昭(森典孝(鹿児島県) 出原菊芳(上ノ瀬利夫(沖縄県) 照屋留子

に努めた結果、滑走路北側で5柱、西海岸で6柱、さらに滑走路西側で10柱、東海岸で1柱の遺骨が収容された。この他、遺骨収集団以外で収容され、安置されていた11柱を含む33柱すべての遺骨の検体を採取した。

すべての任務を終えた派遣団は12月11日に遺骨を運送し、翌12日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑で厚生労働省に遺骨を引き渡した。ソロモン諸島ピスマーク・ソロモン

DNA鑑定を経て現地で茶匙に付される遺骨 = 12月15日、ソロモン諸島コカンボナで

調査班は、ギフ高地、ママラ、エスバラス岬で調査を行い、新たに推定14柱を収容した。鑑定班は、現地に仮安置されていた73柱を鑑定し、令和6年8月の現地調査まで鑑定した94柱と合わせて延べ167柱から遺骨の一部をDNA鑑定用に検体にして採取した。また、水落敏栄本会会長は推進協会の会長として、13日にバプアニュー

先の大戦で英軍の捕虜収容所等で亡くなり、バングラデシユの戦没者墓地に埋葬された日本兵がいるとの情報に基づき、日本戦没者遺骨収集推進協会(推進協)は、11月10日から25日の期間で遺骨収集派遣を実施し、クミラ原マイナマティ戦没者墓地で発掘を行い、推定23柱の遺骨を収容した。

令和7年度政府予算で本会が要望していた「戦没者遺骨による慰霊友好親善事業の洋上慰霊大型船舶借上げ」の予算が認められた。本会では1月末を締切りに参加者を募集している。

令和7年度政府予算で本会が要望していた「戦没者遺骨による慰霊友好親善事業の洋上慰霊大型船舶借上げ」の予算が認められた。本会では1月末を締切りに参加者を募集している。

募集要項は次の通り。時期及び地域 令和7年6月1日(日)～11日(水) 10泊11日(行旅を含む) 参加費及び協力金 10万円。但し、過去の洋上慰霊参加者には協力金を別途いただく。

バングラデシユ双方の遺骨鑑定人が形質鑑定を行い、23柱すべての検体を採取し、11月24日には、在バングラデシユ日本大使館に安置し、鑑定結果が出るまでの間保管を依頼した。

令和5年2月に、水落敏栄本会会長(推進協会長)を団長として派遣が実施され、バングラデシユ外務省及び内閣府をはじめクミラ原県政府、英連邦戦没者墓地委員会(CWGC)、在バングラデシユ英国大使館の代表と協議し、各関係機関からマイナマティ戦没者墓地の遺骨収集に理解と協力が示されており、今回の収容へとつながった。

※青年部付添者(戦没者の孫、ひ孫、甥、姪)補助については、実際に掛かる旅行費用の3分の1が対象となる。

▼参加資格 父等を海没で亡くされた戦没者の遺児で、前年度の本事業に参加していない者。但し、前年度参加者であっても付添者で青年部が同行する場合は参加を認める。

▼申込方法 在住する各都道府県遺族会事務局へ。▼申込締切日 令和7年1月末日

### 23柱の検体を採取

バングラデシユの埋葬地で

### 洋上慰霊実施へ

政府予算案が決定

本会の活動に賛同し、賛助金を寄せていただいた左記の方々に、心よりお礼申し上げます。

賞同名者(敬称略) カタナ名は銀行振込(漢字名は現金書留等) 川中正俊、近藤裕昭、石川一雄、島津博之、山田芳孝、藤原英範、吉田晴彦、塚家英範、金野増三、藤原英則、多田正夫、高浪之雄、小林健男、渡邊三子、田邊杜夫、杉村

克代、山本恵子、松尾智枝、白井さくゑ、川島真治、セガワヒデオ、セガワミズエ、ウチダトシヒコ(以上、12月1日から12月末日まで) 皆様からいただいた賛助金は、本会が実施している英霊顕彰、戦没者遺族の処遇改善、戦没者遺骨収集事業、各種慰霊事業等さまざまな遺族会活動に利用させていただいています。

日本遺族会への賛助金のお礼

# 昭和館 京都で特別企画展開催 石川光陽写真展開催中

昭和館は、巡回特別企画展として12月に京都府で「くらしにみる昭和の時代 京都展」を開催し、期間中多くの来場者が訪れ、貴重な展示資料、映像資料を見学した。また、昭和館の2階ひろばでは、昭和初期から日中戦争が始まる昭和12年にかけて撮影された写真を展示している「石川光陽写真展第1期」が開催中。

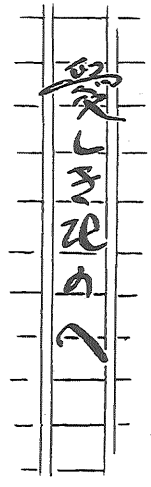
昭和館では、平成13年から巡回特別企画展を開催しており、46回目となる京都府での展覧会は、12月18日(水)より27日(金)まで、京都市勧業館(みやこめっせ)を会場として開催された。

展示資料には、京都府の一人である竹内福鳳が手掛けた「国民精神総動員」のポスターをはじめ、舞鶴港で発行された引揚証明書のほか、亀岡市に疎開した子どもたちの食事風景の写真や、戦

## 恭賀新年

陸軍少佐 座間 重信  
昭和二十年四月十一日  
關領印度スマトラにて戦死  
東京都杉並区和田本町出身 二十四歳

恭賀新年 光輝ある聖戦四年目の元旦を、風雲急なるスマトラの地で迎へました。家の皆様も御元気の事と思ひます。小生相変らず軍務に精進致して居りますから御安心下さい。敬と目見ゆる事二度、未だカスリ傷一つ負はずに居ります。高明もそろそろ操縦が始まる頃ですね。時局益々に必迫の折柄、大いに奮励努力する様お伝へ下さい。御自重自愛の程、御祈り申し上げます。



スマトラ派遣當第九一八〇部隊

【令和七年一月靖国神社頭掲示】

愛しきものへ

石川光陽写真展  
1月15日(水)～19日(日) 10時～17時  
会場：石川光陽写真館  
入場無料  
お問い合わせ：03-3222-2577

久岐短歌  
作品を  
お寄せ  
ください



戦後の労苦を語り講話の実演をする平田修次  
県副会長＝12月1日、福井県あわら市

## 平和の語り部研修会

福井県、島根県で開催

12月1日、福井県遺族会館で平和の語り部研修会を開催。冒頭「語り部」であることを語りとし、不屈の気概をもつて会の発展への寄与を誓う「遺族」の姿を誇り、遺族

竹一が京都御苑や東本願寺を題材に制作した版画や、画家・吉田博が描いた八坂神社の版画などが紹介された。

また映像コーナーでは、初公開となる京都市出身のパーソナリティ・浜村淳さんが戦中・戦後の体験を語った証言映像を上映し、好評を博した。

特設展示では、昭和館が所蔵する版画・ポスターの中から、京都ゆかりの資料が展示された。京都市出身の画家・浅野

「里の秋口さむ母想い出す戦地の父の帰りの待つ日々」  
福島県 柴田 征子  
「回廊のひとひらの葉を避けて歩き大祭に祈る黒い列」  
東京都 木村百百合子  
「レイテ沖に散華し父の八十年遠征を護る國神に奉ず」  
千葉県 石橋 夢子  
「今ほもう唯一の形見軍事郵便筆跡をそめて父にふれた」  
群馬県 須賀 宏江  
「戦死せし父の白木になにもなし慰霊にゆきて石ころ持」  
長野県 塩川 篤子  
「出陣地今は穏やか元気で色あせし便りに取りて読む」  
愛知県 岡田 和幸

それぞれの父親優び睦みたる遺児は母はるかとなれり  
母語る乳飲み児の吾だきかえ父涙くむ出征の朝に  
佐賀県 松尾美津子  
長崎県 安原 恭子

新年あけましておめでとございます。本年も皆様にとりましてご健勝で安らかな一年となります様、心から「祈念申し上げます」  
さて遊就館では、大東亜戦争終戦八十周年の節目の年を迎えた正月から展示ケース内の展示構成の見直しと、若い世代の拝観者にも理解しやすい解説文や表記の修正や、併せて訪日外国人拝観者の増加を踏まえた英語翻訳の併記も実施の上で新たに開館を致しました。英霊の御心と「事跡を未来に繋いで行く新遊就館」を是非とも「ご覧いただきます様」心から願っております。

## 御社奉斎

12月26日、本会事務所  
の御社奉斎が執り行われ  
た。

御社奉斎は午前11時、  
靖国神社の奉仕で執り行  
われ、祝詞奏上に続き玉  
串が奉斎された。

御社奉斎には盛川英治  
事務局長はじめ事務局職  
員が参列し、戦没者遺族  
の健全と本会事業の目的  
達成を祈願した。

▼岩手県 10月26日  
第68回岩手県戦没者遺族  
大会(700人)

▼山形県 10月30日  
第75回山形県戦没者遺族  
大会(530人)

▼鳥根県 11月6日  
令和6年度沖繩・鳥根の  
塔「追悼式」(28人)

▼愛媛県 11月8日  
令和6年度愛媛県戦没者  
部等含む「慰霊巡拝参  
加者及び青年部、女性部  
と語り部研修会」(70人)

▼徳島県 11月10日  
第96回語り部事業(50人)

▼福岡県 11月18日  
令和6年度福岡県遺族  
戦没者遺族大会(800人)

▼岡山県 11月30日  
令和6年度岡山県戦没者  
遺族代表者大会(600人)

▼福島県 12月1日  
令和6年度福島県遺族  
研修会(76人)

▼福井県 12月1日  
平和の語り部研修会  
(100人)

▼茨城県 12月3日  
令和6年度茨城県戦没者  
遺族大会(718人)

▼埼玉県 12月8日  
9日 支部員・女性部長  
等研修会(48人)

## お詫び

本紙12月(第888号)発行の4面「九段短歌」で選者の氏名を「村田 信正氏」と記載しましたが、正しくは「村田 信昌」氏の誤りでした。ここに訂正し深謝いたします。

語り部に取組む原晴昌副会長は地元斐川町での活動について、青年部と地元コミュニティセンターの理解、協力によるものだとし、次世代と行政を巻き込む必要性を伝えた。

次に須山昇副会長(青年部)より青年部結成への説明がなされた。既に結成中の支部(松江市、出雲市、安来市、飯石郡、仁多郡、斐川町)より、青年部長を決め、来年2月16日に設立総会の開催が決議された。

石原道夫会長は、終戦80年遺族会の活動をどう昇華させるか一つに頑張ろうと呼びかけた。

青年部は、12月17日栃木県で結成され、鳥根県の結成をもって全47支部の結成となる。次々で両県の取組みを紹介する。